

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年度六月 入賞句一覧

投句数 二千三百八句



持選

長町 誠司 選

かぶとむしちからいつばいちからもち

大垣市

村若 恵多(小三)

兜虫はコガネムシ科の甲虫で夏の季語です。俳句でも「兜虫」「甲虫」「さいかち虫」などと使い分けられて作句されています。とりわけ少年たちに人気なのは、頭部に発達した大きな角があるからでしょう。さてこの句、兜虫が力持ちというありふれた事をいうのではなく、「ちから」という語を重ねて使うことで、より強調効果を高める表現となっています。

宿題と入道雲が迫りくる

加茂郡川辺町

神谷 祐香(中二)

切迫感が読者にひしひしと伝わってきます。ひつきりなしに湧き出て、追いかけてくるかのような入道雲は、はかどらない宿題をかかえる作者の心と重なります。入道雲は季語の「雲の峰」の傍題で、そびえ立つさまを山並にたとえて表現されます。作者にも難攻不落の宿題がそびえ立っているようですね。ぜひ乗り切ってほしいと思います。

母の日はわたしが仕事やりとげます

大垣市

横川 柚季(小六)

「母の日」の母を手伝う俳句は数多くありますが、ここまで断言した俳句に驚きました。とてもしつかりしていて、優しい作者と思われれます。やりとげようとしているのはどんな仕事なのでしょう。か。「やります」でなく「やりとげます」の言葉から、強い意志と責任感を感じ取ることができました。この日はお母さんも大助かりです。「母の日」は日頃の母へ感謝を表す日なのですが、国によって起源も日付も違うそうです。興味があれば調べてみて下さい。

秀逸

幸せを泳いで運ぶよ鯉のぼり

加茂郡川辺町

渡辺 かずは(中二)

紫陽花よ雨をかぶりて花ひらけ

加茂郡川辺町

木下 真心(中二)

扇風機ついつい強にしてしまう

大垣市

高橋 愛莉(小六)

夏の海今年は遠く遠くなる

大垣市

宗宮 彩巴(小六)

ありの道列をみださずならばせて

大垣市

小森 裕介(小五)

手の中をそつとのぞいて蛍狩

大垣市

泉 侑乃介(小六)

ばく転をすると夏の日ふりかかる

大垣市

淵 徳玖(小六)

さんじにねさんじのおやつかぜかおる

大垣市

浅野 晴香(小二)

夏の雨一つぶ一つぶ目にうつる

大垣市

安田 悠人(小四)

あじさいをつたつてあるくしずくたち

大垣市

白石 凧(小六)

入選

水面に写り広がるひまわりだ

加茂郡川辺町

神谷 祐香(中二)

入学の合図をくれる桜の木

加茂郡川辺町

池田 徹晶(中一)

弟が虹に向かって走り出す

加茂郡川辺町

堀井 咲来(中一)

天道虫ねがいをかなえとんでいき

大垣市

菊地 煌希(小三)

田植えして土にすかれて足ぬけず

大垣市

福井 結心(小五)

かたつむりひとふでがきでかくれんぼ

大垣市

伊藤 晟冴(小三)

風鈴の音鳴る所人だから

大垣市

細谷 凜(小六)

ひまわりがまぶしくさいた通学路

大垣市

斗内 音瑠(小六)

鯉幟広い世界でおよいでる

大垣市

佐藤 世菜(小六)

田植時土のかんしよく気持ちいい

大垣市

深見 佳輔(小五)

錦鯉着物の中で泳いでる

大垣市

神谷 咲希(小五)

もこもこのかき氷の中入りたい

大垣市

明石 紗和(小六)

一つだけ花火の音がなりひびく

大垣市

野呂 春翔(小六)

よってくる神社の池の緋鯉たち

大垣市

金森 恵世(小六)

蟻さんはおかしのカスをそうじする

大垣市

野村 あこ(小六)

いととんぼどこへとまろうかんがえた

大垣市

井ノ口 璃乃(小三)

せんぷうきだしたらなんとホコリつき

大垣市

相坂 宥心(小五)

春のかぜ伝えにきたよ春のこと

大垣市

高橋 有為子(小五)

弟とせんぷう機前けんか中

大垣市

外花 瑠彩(小五)

クラゲ見て時間がゆっくり感じるよ

大垣市

久江 七夢(小六)

選者吟

ゆれるのは真つ白だからえごの花

せいじ



小中の部